

日本社会科教育学会 第 65 回全国研究大会（宮城大会）

プログラムの訂正について

（最終更新日：2015 年 11 月 2 日）

① 2 頁：自由研究発表 I－第二分科会

（訂正前） 司会 宮崎大学 吉村功太郎

→（訂正後） 司会 熊本大学 藤瀬泰司

② 15 頁：自由研究発表 II－第 5 分科会

（訂正前） (4) 上越教育大学大学院 中平一義

→（訂正後） (4) 上越教育大学 中平一義

# 日本社会科教育学会 第65回全国研究大会（宮城大会） プログラム

大会主題 未来社会の形成者を育てる社会科授業

期 日 2015（平成27）年11月7日（土）・8日（日） \* 関連行事は6日（金）

会 場 宮城教育大学教育学部（〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地）

主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門

後 援 宮城県教育委員会 仙台市教育委員会

## 日 程

第1日目 11月7日（土）

8:30	9:30	12:00	13:30	16:15	17:15	17:30	19:30
受付	自由研究発表 I	昼食 評議員会	シンポジウム	総会	移動	懇親会 (宮城教育大学萩朋会館)	

第2日目 11月8日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表 II	昼食	課題研究発表	

## 関連行事 — 巡検

日 程 2015（平成27）年11月6日（金）

テーマ 被災地と社会科

対象地域 仙台市荒浜地区・名取市閑上地区

案内者 小田隆史（宮城教育大学教育復興支援センター）

人 数 先着40名

集合時間・場所 13:00・JR 仙台駅東口より直進（徒歩3分）のハウジングセンター前

時 間 13:00～17:30

費 用 2000円（上記の集合場所までの移動にかかる費用は実費負担）

自由研究発表Ⅰ－第1分科会 (221教室)

司会者 東京大学 華井 和代  
宇都宮大学 溜池 善裕

- (1) 平和学習における博学連携の意義  
－直接的平和教育と間接的平和教育を基にした「次世代の平和教育」の開発－  
愛知教育大学大学院 大柿 実
- (2) 加害から考える平和教育  
－ナショナリズムを超えて－  
都立国分寺高等学校 西尾 理
- (3) 戦争・紛争を認識するためのカリキュラム構想  
四日市市立羽津小学校 井川和道
- (4) 国際社会に生きる平和な社会の形成を担う生徒の育成Ⅱ－①  
大田区立南六郷中学校 種藤 博
- (5) 国際社会に生きる平和な社会の形成を担う生徒の育成Ⅱ－②  
江戸川区立小松川第二中学校 詰田剛也

自由研究発表Ⅰ－第2分科会 (223教室)

司会者 鹿児島大学 溝口 和宏  
宮崎大学 吉村功太郎

- (1) 高等学校「倫理」ロゴスに従うソクラテスの考察にもとづく授業実践  
－クリトンとの対話状況の分析を題材としたディベート学習の試みとして－  
北海道岩見沢東高等学校 佐藤克宣
- (2) 〈考える「倫理」〉の授業構成とその課題  
－日本学術会議の提言を受けて－  
筑波大学附属駒場中・高等学校 山本智也
- (3) 中学校社会科公民的分野における「対立と合意」・「効率と公正」と高等学校公民科における  
「幸福」・「正義」・「公正」の接続の課題  
東海学園大学 原 宏史
- (4) 公民的資質と道徳  
－法教育の視点から－  
藤沢市立大庭中学校 吉田浩幸
- (5) 社会科教育と道徳教育をつなぐ模擬裁判  
－模擬裁判の教育的価値と効果－  
日本法教育研究会 平野節子

**自由研究発表Ⅰ－第3分科会（224教室）**

司会者 東洋大学 栗原 久  
東京学芸大学附属国際中等教育学校 山本 勝治

- (1) ライフスタイルの変容を追究する高等学校公民科現代社会の授業開発  
－少子化問題を事例として－

新潟大学大学院 赤根ひかる

- (2) リスク社会における公害学習  
－新潟水俣病の授業実践を事例として－

東京学芸大学附属世田谷中学校 石本貞衡

- (3) 身近な地域の経済活動と環境教育(19)  
－環境ビジネスの授業から15年目の公民的資質－

名古屋商科大学 竹澤伸一

- (4) 「人生前半の社会保障」としての若者の社会参画について  
－「地域が支える」「地域を支える」社会参画の課題に関する研究－

茨城県立取手第一高等学校 大滝 修

- (5) 財政危機から日本の未来社会を考える  
－中学校社会科公民的分野を中心に－

愛知教育大学 真島聖子

**自由研究発表Ⅰ－第4分科会（210教室）**

司会者 宇都宮大学 熊田 禎介  
国立教育政策研究所 二井 正浩

- (1) 18歳選挙権導入における政治教育の現状と課題、可能性  
－子どもの社会参画促進に向けて－

東洋大学 林 大介

- (2) 18歳投票権時代の主権者教育に関する研究  
－中学校3分野を包括する主権者教育の実践から－

八戸市立大館中学校 大下洋一

- (3) ワークショップ形式による主権者教育プログラムの開発と実践(1)  
－公民科「政治・経済」における取り組みを事例として－

新潟県立新潟江南高等学校 田中一裕  
新潟大学 釜本健司  
岡山大学 桑原敏典  
大阪体育大学 工藤文三  
広島大学 棚橋健治  
桐蔭横浜大学 谷田部玲生  
信州大学 小山茂喜  
宮崎大学 吉村功太郎  
福井大学 橋本康弘  
広島大学 永田忠道

川崎医療短期大学	中原朋生
愛媛大学	鴛原 進
東京学芸大学	渡部竜也

(4) ワークショップ形式による主権者教育プログラムの開発と実践 (2)

－生徒と保護者がともに学ぶ教科外活動の取り組みを通して－

岡山大学	桑原敏典
東京学芸大学	渡部竜也
大阪体育大学	工藤文三
広島大学	棚橋健治
桐蔭横浜大学	谷田部玲生
信州大学	小山茂喜
宮崎大学	吉村功太郎
福井大学	橋本康弘
広島大学	永田忠道
川崎医療短期大学	中原朋生
愛媛大学	鴛原 進
新潟大学	釜本健司
新潟県立新潟江南高等学校	田中一裕

(5) 小学校における主権者意識を育てるための社会科授業の在り方

－「君も今日から政治家だ！市長選挙に立候補！」の2年間の取り組みから－

同志社小学校 長瀬拓也

**自由研究発表 I – 第 5 分科会 (232 教室)**

司会者	北海道教育大学	藤本 将人
	亜細亜大学	三浦 朋子

(1) 1978 年版「現代社会」の総合的性格と学校現場での実践

－学習指導要領実施前の諸実践を事例に－

筑波大学大学院 林 裕行

(2) 継続的な指導と評価による思考力・判断力・表現力および資料活用の技能の育成

－公民科「現代社会」レポート作成と授業実践を通して－

愛知教育大学附属高等学校/愛知教育大学大学院 田中見佳

(3) 中等教育段階におけるシミュレーションを活用した公民科授業の実践開発

東京都立桜修館中等教育学校 高橋勝也

(4) 貧困問題をどう教えるか

－貧困の現状及び授業における到達点と課題－

高千穂大学 鈴木隆弘

(5) 社会変革へ向かう社会科学習を求めて

－「正統的周辺参加」における「拡張による学習」の可能性－

佐賀大学 佐長健司

**自由研究発表Ⅰ－第6分科会（233教室）**

司会者 広島大学 草原和博  
群馬大学 宮崎沙織

- (1) ドイツの教員養成・研修改革にみる教員の地理教授力向上策

静岡大学 山本隆太

- (2) ESDの視点からみたドイツBW州・NI州・NW州の地理レールプランと地理教科書の研究

広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員 阪上 弘彬

- (3) 社会科教育からみたPCK(Pedagogical Content Knowledge)論

－イギリス地理教育界での議論を参考にした考察－

上越教育大学 志村 喬

- (4) 英国地理教育における産業学習のカリキュラム構造

－英国地理テキストブック”NEW KEY GEOGRAPHY”の場合－

共栄大学/兵庫教育大学連合大学院 佐藤克士

- (5) 尾崎帛四郎における地理学と社会科教育との関連

－文部省著作教科書『土地と人間』の考察－

岡山市立岡山後楽館高等学校 今井英文  
群馬大学名誉教授 山口幸男

**自由研究発表Ⅰ－第7分科会（226教室）**

司会者 兵庫教育大学 原田 智仁  
弘前大学 篠塚 明彦

- (1) 状況論的アプローチを用いた相互行為による中学校社会科授業の一考察

－歴史的分野「戦後の日本と世界」を事例に－

佐賀大学附属中学校 野田英樹

- (2) 歴史リテラシーの育成についての教育実践

－史・資料学習を中心に－

新潟県立新発田高等学校 竹田和夫

- (3) 戦間期ヨーロッパ国際関係の教材化について

－「二つの世界大戦の時代」1930年代を中心に－

早稲田大学 遠藤紳一郎

- (4) 関係性修復・再構築の視点を取り入れた歴史教育

－学習者が自身の問題として考えるために－

東京学芸大学連合大学院 齊藤征俊

- (5) 「新しい世界史」にどう取り組むか

－個別的専門研究をどう関連づけるか－

静岡大学 伊藤宏二

**自由研究発表Ⅰ－第8分科会（227教室）**

司会者 国士舘大学 加藤 公明  
東洋大学 須賀 忠芳

- (1) 歴史教科書と国民意識の形成  
－文革新中国の中等教育教科書を中心に－  
中央大学大学院 陳 志華
- (2) 状況学習論による郷土の偉人学習の開発  
－小学校社会科第4学年単元「成富兵庫茂安について考えよう」を事例に－  
上峰町立上峰小学校 田本嘉昭
- (3) エネルギー使用の持続可能性を考える小学校社会科歴史学習  
三重大学 山根栄次  
三重大学 永田成文  
四日市市立泊山小学校 萩原浩司  
四日市市立泊山小学校 石田智洋
- (4) 和歌森太郎の社会科歴史論と授業実践との関係  
－雑誌『社会科歴史』の分析を通じて－  
筑波大学大学院 藤原尚哉
- (5) 黒羽清隆の社会科歴史教育論の今日的意義  
－社会科教育学との関係性を通して－  
香川大学 鈴木正行

**自由研究発表Ⅰ－第9分科会（231教室）**

司会者 埼玉大学 桐谷 正信  
鹿児島大学 田口 紘子

- (1) 社会科教師研究における社会学・希望学の応用可能性  
筑波大学大学院/日本学術振興会特別研究員 村井大介
- (2) 「社会参画学習」授業モデルの発展的構築  
－歴史学習領域への適用－  
文教大学 吉田正生
- (3) ワークショップ型授業論による「交渉」の活動空間の教材化  
山形大学 江間史明
- (4) ヨーロッパにおける歴史教育の継続性と変化  
－ホロコーストの「傍観者」－  
筑波大学 柴田政子
- (5) 社会における過去の取り扱いに関する学習の諸相  
－ドイツの歴史教科書を手がかりにして－  
山梨大学 服部一秀

**自由研究発表Ⅰ－第10分科会（229教室）**

司会者 東北学院大学 坪田 益美  
京都教育大学 水山 光春

- (1) デューイ実験学校における原始時代の学習に関する一考察  
－「実験学校の初等のグループにおける原始時代の歴史」の分析を中心として－  
愛知教育大学大学院 中村仁志
- (2) ハロルド・ラッグのカリキュラムデザイン論における教師の位置づけ  
－デューイの教育思想とNEA社会科報告書との比較を通して－  
東北大学 斉藤仁一郎
- (3) 戦前公民科成立期における公民科と修身の関係  
－文部省主催公民教育講習会の講演内容を通して－  
新潟大学 釜本健司
- (4) 英国の教科「シティズンシップ」における思想性確立の分析  
－クリック・レポートの再検討－  
東北大学大学院 中村和人
- (5) 英国シティズンシップ教育における包括性と宗教的多様性  
－政治行動原理としての宗教的基盤－  
東北大学 谷口和也

**自由研究発表Ⅰ－第11分科会（420教室）**

司会者 東京学芸大学 大澤 克美  
お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝

- (1) 新しい農業学習に関するカリキュラム開発  
－観光農業に特化したいちご栽培－  
板橋区立板橋第十小学校 石橋昌雄  
板橋区立板橋第十小学校 丸野陽子  
板橋区立板橋第十小学校 豊田花梨  
荒川区立第二峡田小学校 菅原周一郎  
板橋区立上板橋第二小学校 川久保好子
- (2) 新しい農業学習に関するカリキュラム開発  
－オリジナルの品種づくりに挑戦する花卉栽培－  
板橋区立板橋第十小学校 河部菜月  
板橋区立板橋第十小学校 山野紅葉  
板橋区立板橋第十小学校 飛騨野安位  
板橋区立板橋第十小学校 石橋昌雄  
立川市立第九小学校 村本道子  
荒川区立第二峡田小学校 小林 渉
- (3) 日本の食料生産と食生活  
－第5学年 わたしたちの食料生産の授業実践の場合－  
宇多津町立宇多津小学校 河野富男

(4) 社会科における副読本のメディア構成と活用法に関する研究 (1)

ー長野県の社会科副読本の作成状況と分析の視点ー

信州大学 松本 康  
信州大学 篠崎正典

(5) 社会科における副読本のメディア構成と活用法に関する研究 (2)

ー長野県の社会科副読本における防災教育の内容ー

信州大学 篠崎正典  
信州大学 松本 康

**自由研究発表 I ー第12分科会 (236教室)**

司会者 筑波大学附属小学校 梅澤 真一  
清和大学 小松 伸之

(1) 小学校社会科「エキスパート教員」の授業力形成過程とその要因の考察

ー4人のライフヒストリー分析を通してー

広島大学大学院/神戸市立竹の台小学校 中島常彦

(2) 大学院生の社会科授業力向上に関する実践的研究

新潟大学 宮菌 衛  
新潟大学大学院 大井飛知岐  
新潟大学大学院 芽野 道  
新潟大学大学院 小池勇也  
新潟大学大学院 佐藤美咲  
新潟大学大学院 諸橋祥伸

(3) 「学びのチューター」を通して大学生が学んだこと

ーいま教育実習の課題は何かー

奈良女子大学附属中等教育学校 北尾 悟

(4) 社会認識形成のための小論文指導

ー「21世紀型能力」の育成をめざした教科横断カリキュラムの開発ー

藤ノ花女子高等学校 井原淑雅

(5) 社会科における授業構築に関する一考

ー学校訪問指導を手がかりにー

秋田県教育庁南教育事務所 小坂靖尚

**自由研究発表 I ー第13分科会 (230教室)**

司会者 千葉大学 竹内 裕一  
日本女子大学 田部 俊充

(1) 中学校社会科授業改善の実践的研究 (2)

ー地理的事象から社会問題を見い出す単元開発ー

新潟大学大学院/三条市立栄中学校 関 拓也

- (2) 中学校社会科地理的分野におけるムスリムの日常生活の教材化  
－イスラームへの偏見の除去を目指して－

東京学芸大学 荒井正剛

- (3) 学習課題に対する視点の明示化による社会科教師のゲートキーピング  
－ストランドを用いた「日本の諸地域」の授業改善－

府中市立府中第四中学校 岩淵公輔  
東京大学大学院 堀田 諭

- (4) 中学校地理的分野（日本の諸地域）における価値判断型の授業づくり  
－北陸新幹線を例に－

富山大学附属中学校 坂田元丈

- (5) 多文化共生社会を生き抜く力を養う社会科授業  
－中学校社会科 地理的分野「人々の生活に根ざす宗教」の実践を通して－

上越市立大潟町中学校 仙田健一

**昼食**

**12:00～13:30**

**評議員会 (210教室)**

**12:00～13:30**

## 社会科における復興教育の可能性をさぐる—新たな地域創生と社会参画—

## [趣旨]

あの3・11, 東日本大震災から4年が過ぎましたが, 避難者は今も約23万人にのぼっています。政府が決めた5年間の集中復興期間もまもなく今年度で終了します。しかしながら, 災害公営住宅の建設や集団移転などをはじめとして, 復興計画の多くは予定通りには進んでいないのが現状です。

このように被災地の将来に向けての見通しを未だ持ちにくい状況の中にもかかわらず, 「医」「職」「住」の再建をはじめとして, 新たな地域再生・創生の様々な取り組みが模索されています。しかしながら, 実は東北地方, 中でも今回被害の大きかった沿岸部の被災地をはじめとする地域では, 震災前から「持続可能な地域創生」という視点からみた場合に, 様々な課題に既に直面していました。むしろ, 大震災がこうした様々な課題を顕在化させるとともに, 増幅化させたとみることができます。例えば, 若者人口の減少と高齢化に伴う医療や福祉の空洞化, 地場産業の衰退と後継者不足, 地域コミュニティの弱体化による地域文化の消失などといった課題があらためて浮き彫りになってきています。

こうした社会の現実と向き合ったとき, 昨年静岡大会のシンポジウムテーマに関わって記載されていた「より良い社会の創造のために, このような新たな変化をもたらす様々な社会の課題に, 主体的に問いをもって考え, お互いに意見を議論し合い, その解決のために協力して行動する資質や能力が, 市民一人ひとりに今後ますます問われるようになるでしょう。そのため, 公民的資質の育成を目指す社会科において, (中略)に向き合うことに, 大きな意味があると考えます」という文章は, 東北地方にもそのまま当てはまります。よりよい復興の在り方を考えるための教育を「復興教育」という言葉で表した場合に, 学校教育の中での一教科としての社会科が果たす役割には大きなものがあると言えるでしょう。

シンポジウムでは, 「持続可能な地域創生」という視点から, 社会科における「復興教育」のあり方とその可能性について, シンポジストに提起していただく予定です。そして, その提起を踏まえながら, 具体的にどのような教材を開発し, どのような授業を構想していけばよいのか, 参加者の皆様とともに議論を深めていきたいと思っております。

コーディネーター 広島大学 小原 友行  
宮城教育大学 松岡 尚敏

## 報告者

## (1) 東日本大震災被災地の復興と地域再生の現状と課題

河北新報社 玉應雅史

## (2) 災害を地球規模課題として扱う社会科学習に向けて

—ポスト2015アジェンダの理解を通じた教育実践の試み—

宮城教育大学 小田隆史

## (3) 学校防災の自校化を推進するために

—学校防災支援と教員養成での取組から—

山形大学 村山良之

## (4) 小学校社会科における防災教育の取り組みと課題

—宮城県女川町と石巻市における実践を通して—

石巻市立向陽小学校 中澤健一

**総会 (220教室) 16:15~17:15**

**懇親会 (萩朋会館) 17:30~19:30**

自由研究発表Ⅱ－第1分科会（210教室）

司会者 弘前大学 小瑤 史朗  
帝京大学 野口 剛

- (1) 低学年社会科における「人」に関する教材の研究  
－これからの生活科教育の在り方への示唆－

愛知教育大学大学院 山本銀兵

- (2) 市民社会共同体への参加としての学習評価の検討  
－小学校第3学年における学習者のナラティブを事例として－

佐賀市立高木瀬小学校 田本正一

- (3) 「昔の暮らし」を公共交通で考える  
－馬鉄から路面電車で、生活が変化した－

札幌市立幌西小学校 伊藤健太郎

- (4) 伝統文化に関する学習の新視点  
－第3学年「みんなが楽しむ地域の祭り」の実践を通して－

江東区立明治小学校 柳沼麻美  
町田市立大蔵小学校 石井正広  
八王子市教育委員会 北川大樹  
東京都教育委員会 秋田博昭

- (5) 防災・安全に関する学習の新視点  
－第4学年「災害から暮らしを守る」第5学年「自然災害防止の取組」の実践を通して－

東京都教育委員会 児玉大祐  
大田区教育委員会 木下健太郎  
小平市教育委員会 横山 明  
東京学芸大学附属小金井小学校 小倉勝登  
八王子市立恩方第二小学校 塚島敬太  
狛江市立狛江第三小学校 松村隆寛

- (6) 情報化社会に関する学習の新視点  
－第5学年「わたしたちの生活と情報化社会」の実践を通して－

新宿区立愛日小学校 田中かおり  
板橋区立板橋第八小学校 西谷秀幸  
八王子市立陶鎔小学校 島田 学  
東京都教育委員会 國長泰彦  
新宿区教育委員会 北中啓勝

## 自由研究発表Ⅱ－第2分科会（221教室）

司会者 東北歴史博物館 澤井 文彦  
新潟大学 宮園 衛

- (1) 身に付けた見方や考え方を生かして、社会的事象の意味を考える子の育成  
－見方や考え方を転移応用できる生かす場面の設定－  
東京学芸大学附属小金井小学校 小倉勝登
- (2) 教科書資料を活用した社会科学習  
－室町文化の学習の事例を通して－  
北海道教育大学 田山修三
- (3) 市民的な資質をはぐくむための授業づくり  
－「言語活動」を手がかりにして－  
みよし市立北部小学校 松永康史
- (4) 自分の生活をより実感できる教材の開発について  
－第5学年「トイレ製品をつくる工業」の実践を例に－  
川越市立大東東小学校 永野貴之  
聖徳大学 廣嶋憲一郎
- (5) 児童が主体的に社会に関わろうとする社会科学習の在り方  
－事象と情意に焦点を当てた指導の一考察－  
筑波大学附属小学校 粕谷昌良
- (6) 子供が問いを持ち、追究し続ける社会科授業  
－「主体的に学ぶ姿」を目指して－  
宮城教育大学附属小学校 佐藤拓郎  
宮城教育大学附属小学校 三浦秋司

## 自由研究発表Ⅱ－第3分科会（223教室）

司会者 明治学院大学 佐藤 公  
横浜国立大学 重松 克也

- (1) 問題解決的な学習過程における学習問題の役割と可能性  
－小学校社会科の単元計画の分析を通して－  
帝京大学大学院 中田正弘  
帝京大学大学院 長澤慎哉
- (2) 社会参加能力を育成する社会科学習評価研究  
－学習評価問題「なぜ青森県ではねぶた祭りが行われるのだろうか」の開発を通して－  
北海道教育大学大学院 佐藤健翔
- (3) 構築主義的社会科実践研究の理論的検討  
－学びのプロセスの可視化に着目して－  
中央大学大学院 津山直樹
- (4) 小学校社会科における「討論」学習についての研究  
－理論と実践を中心として－  
秋田大学大学院 鎌田達也

(5) 小学校教員養成段階における社会科の教材開発力育成に関する研究

帝京平成大学 高橋武郎

(6) 個人的な判断から社会的な判断へと判断の変容を促す価値判断力・意思決定力を育成する社会科授業  
－「土用の丑の日に絶滅危惧種のうなぎを食べるべきか否か」の実践を通して－

筑波大学附属小学校 梅澤真一

### 自由研究発表Ⅱ－第4分科会 (224教室)

司会者 信州大学 篠崎 正典  
三重大学 永田 成文

(1) 指定保育士養成施設と社会科教育  
－両者は本当に結合可能か－

聖徳大学 小田桐忍

(2) 田中裕一「水俣病の授業」の再検討

茗溪学園中学校高等学校 前嶋 匠

(3) 学習意欲を高める中学校社会科授業  
－石井建夫の「山びこ学校」の実践分析から学んで－

愛知教育大学大学院 渡部紗千

(4) 教師の実践的知識の形成過程に関する研究  
－長岡文雄の実践的知識の形成・継続・変容のプロセスに着目して－

東北大学大学院 漆畑俊晴

(5) 授業づくりの方法をいかに教えるか  
－教材論を中心として－

国士舘大学 加藤 公明

(6) 教育型法整備支援と社会科教育の現代的戦略

早稲田大学 久保山力也

### 自由研究発表Ⅱ－第5分科会 (231教室)

司会者 大阪体育大学 工藤 文三  
高千穂大学 鈴木 隆弘

(1) 教室内の生徒全員が参加する思考力・判断力・表現力を育む授業案  
－討論型ワークシートを用いた授業実践－

神奈川県立平塚農業高等学校初声分校 金子幹夫

(2) 高校公民教科書に示された「法教育」の実践と評価  
－教科書による生徒の変容－

明治大学 藤井 剛

- (3) 社会権と憲法教育  
 ー人権保障と立憲主義ー  
 川崎市立野川中学校 大坂 誠
- (4) PBL の手法を活用した法教育研究  
 ー表現の自由を題材にしてー  
 上越教育大学大学院 中平一義
- (5) 中学校社会科における法的思考を培うジレンマ課題の教材化  
 ー「ドイツ航空法」の違憲判決をめぐってー  
 お茶の水女子大学附属中学校 寺本 誠
- (6) 対話とネットワークによる学び  
 ー中学校社会科授業「同性パートナーシップ条例について考え、意見書をおくろう」よりー  
 佐賀大学大学院 長澤都香

## 自由研究発表Ⅱー第6分科会 (232教室)

司会者 早稲田大学 池 俊介  
 帝京大学 鎌田 和宏

- (1) 社会科と総合的学習の連携による体験型防災教育  
 ー地域で活躍できる中学生を目指してー  
 信州大学附属松本中学校 楠 武明  
 信州大学 松本 康
- (2) まちづくりの課題を考える社会科授業開発  
 ー被災地の取り組みを事例としてー  
 亜細亜大学 三浦朋子  
 千葉大学附属中学校 椎名和宏
- (3) 国際理解教育との融合に基づく小学校防災教育プログラムの開発  
 ーフィリピンの台風「ハイヤン」被災地を取り上げた学習を事例としてー  
 岡山大学 桑原敏典
- (4) 構成主義的アプローチによる小学校社会科防災学習の開発  
 ー第5学年単元「自然災害をふせぐ」を事例としてー  
 兵庫教育大学大学院 佐藤太紀
- (5) 明るい未来社会の形成者を育てる社会科授業との出会い  
 ー小学校第3学年1学期の実践よりー  
 金沢大学附属小学校 泊 和寿
- (6) 小学校社会科における実感的な学び(5)  
 ー中学年 人々の生活の変化や人々の願いの学習を例にー  
 東京学芸大学附属小金井小学校 根本 徹

## 自由研究発表Ⅱ－第7分科会（233教室）

司会者 文部科学省 樋口 雅夫  
愛知教育大学 真島 聖子

(1) 社会ゲーミングとしての「ごっこ遊び」

流通経済大学 市川 新

(2) ESDの視点を導入した小学校社会科における消費者教育に関する一考察

奈良教育大学 中澤静男

(3) 経済教育は倫理とどのように関わるか

－大学生の経済倫理認識調査から分かったこと－

日本体育大学 猪瀬武則  
三重大学 山根栄次  
東洋大学 栗原 久  
実践女子大学 高橋桂子  
名古屋女子大学 宮原 悟  
山梨大学 服部一秀

(4) 中学校社会科公民的分野における金融・消費者教育の学習プログラム開発

信州大学 田村徳至

(5) 「経済についての見方や考え方」に関する同意・不同意

－予備的調査の結果から－

東洋大学 栗原 久

(6) 中学生はどこまで経済の基本概念を理解できるか

－中等教育学校の実践から－

東京都立小石川中等教育学校 新井 明

## 自由研究発表Ⅱ－第8分科会（236教室）

司会者 山形大学 高 吉嬉  
兵庫教育大学 吉水 裕也

(1) 地域への愛着形成を意図する伝統文化教材の授業構成

－小3社会科授業実践「凧作りの魅力って？」を手がかりに－

関西学院大学 峯岸由治

(2) 継承的アーカイブの活用と「次世代の平和教育」の展開

－広島「被爆体験伝承者」のデビューと「平和教育プログラム」の実践－

秋田大学 外池 智

(3) 世界遺産の視点を組み込んだ文化学習の展開（Ⅲ）

－鎌倉の文化遺産を鎌倉文化の学習といかに接続するか－

清和大学 小松伸之

(4) 自県の資源と世界遺産の価値に気づかせる小学校社会科・観光の授業

玉川大学 寺本 潔

- (5) 小学校教員養成課程「社会」における博物館授業の実践と効果  
－アイヌ文化資料の活用を中心として－

北翔大学短期大学部 菊地達夫

- (6) 多文化教育としてのアイヌ文化学習  
－授業案や学習指導案の作成・収集に向けて－

北海道教育大学 鈴木哲雄

### 自由研究発表Ⅱ－第9分科会 (226教室)

司会者 香川大学 鈴木 正行  
東北大学 谷口 和也

- (1) 戦国大名概念を考える中学校社会科歴史授業の開発

新潟大学大学院 早福 史

- (2) 原始人日記を中学生が書く  
－歴史認識を問う歴史学習－

新潟市立石山中学校 小林 朗

- (3) 歴史を紡いで時代を捉える中学校社会科学習の理論と実践  
－「新聞史」を近現代史学習と関連付けた授業を通して－

かすみがうら市立千代田中学校 岡野英輝

- (4) 思考力を高める「定まった答えのない定期試験問題」の試み  
－中学校 歴史的分野－

湘南白百合学園中学・高等学校 熊本秀子

- (5) 「時代の特色をとらえる学習」に関する実践的研究  
－中学1～3年までの継続的实践を通して－

宇都宮大学大学院/佐野市立葛生中学校 恩田宗生

- (6) 「歴史を学ぶことの意義」を問う社会・地理歴史指導法の実践とその考察  
－加藤・須賀論争を基軸としながら－

東洋大学 須賀忠芳

### 自由研究発表Ⅱ－第10分科会 (227教室)

司会 新潟県立新発田高等学校 竹田 和夫  
上越教育大学 茨木 智志

- (1) 古代文化史学習におけるアクティブ・ラーニングの一考察  
－高等学校地理歴史科日本史Bでの実践報告－

東洋英和女学院大学 坪井龍太  
東洋英和女学院中高部 水谷 悟

- (2) 中等社会科歴史教育における歴史的思考力を育成する授業理論に関する一考察  
 —加藤公明の授業実践を手掛かりに—  
 上越教育大学大学院 羽廣裕希
- (3) 考古学調査や博物館見学を取り入れた歴史教育  
 —高校における新聞や博物館資料を用いた学習—  
 金沢大学大学院/東北学院榴ヶ岡高等学校 多々良穰
- (4) 史蹟・古文書・回想記からの歴史像構築をめざす授業  
 —明治十四年天皇北海道巡幸を通して—  
 北海道恵庭南高等学校 國岡 健
- (5) 満蒙開拓を事例とした歴史学習  
 土浦日本大学高等学校 栗林幸雄
- (6) 歴史的読解技能の育成を目指した世界史授業の検討  
 —T高校での実践授業を事例として—  
 筑波大学大学院 石川航平

## 自由研究発表Ⅱ—第11分科会 (229教室)

司会者 山形大学 江間 史明  
 熊本大学 竹中 伸夫

- (1) 子どもの発想を生かし、未来を見る目につなげる歴史授業の創造  
 —創造的思考を促す古代の教材開発—  
 岡崎市立六名小学校 恒川 徹
- (2) 小学校社会科歴史学習における児童の情報解釈過程に関する考察  
 —「メディア視点」を取り入れた授業実践を通して—  
 名古屋市立野田小学校 松本卓也
- (3) 天武・持統期の王権に関する教材化の視点  
 —国家仏教をてがかりに—  
 筑波大学大学院 齋藤琴音
- (4) 近代日本における「国民」意識形成過程の理解を深める中学校社会科の教材開発研究  
 新潟大学大学院 伊藤直貴
- (5) 定時制高校における歴史的思考力を育成する授業法の開発  
 —思考チャートを用いた足場かけの活用—  
 愛知教育大学大学院 白河 格
- (6) 朝鮮戦争を市民の目で考えさせる授業  
 —金聖七の日記をとりあげて(高校1年世界史)—  
 京都橘中学校・高等学校 三上真葵

## 自由研究発表Ⅱ－第12分科会（228教室）

司会者 東京福祉大学 小野 智一  
文教大学 吉田 正生

(1) 主体的な学びを促す評価・授業計画書の実践

住田町立世田米中学校 細川 遼太

(2) 中学校社会科における市民性の評価の検討

－单元「地方自治と住民の参加」の開発を通して－

釧路市立鳥取中学校 林 祐史

(3) 教職課程におけるモビリティ・マネジメント教育を担う社会科教員養成の試行的取り組み

常磐大学 大高 皇

(4) 反省的実践家の育成をめざす教育実習指導の方法

－構成的教科書観に基づく中学校社会科実習の場合－

熊本大学 藤瀬 泰司  
熊本大学附属中学校 坂田 秀一  
熊本大学附属中学校 小田 修平

(5) ESDの視点を取り入れた中学校社会科の学習指導

練馬区立大泉西中学校 池下 誠

(6) 学びを深める ESD の授業実践

－ふり返しシートの分析を通して－

神戸大学附属中等教育学校 森田 育志

## 自由研究発表Ⅱ－第13分科会（420教室）

司会者 新潟大学 釜本 健司  
新潟県立新潟江南高等学校 田中 一裕

(1) 「第2回公民科教員アンケート調査」結果の中間報告

－経済教育の視点から－

早稲田大学 山岡 道男  
城西国際大学 阿部 信太郎  
元・山村学園短期大学 浅野 忠克

(2) 社会的論争問題学習における合意形成の理論的考察

－「対立」「解決」の分類モデルについて－

東北大学大学院 王 語芯

(3) 多数決の原理とその運用の在り方に関する指導

江東区辰巳中学校 仲村 秀樹

(4) 非合理的意思決定論に基づく政治学習

－「18歳選挙権」時代の社会科教育－

西九州大学 松井 克行

- (5) 「政治的リテラシー」のパフォーマンス評価研究  
 -川内原発の再稼働をめぐる実践を通して-

お茶の水女子大学附属小学校 岡田泰孝

- (6) 政治的リテラシーとは何か  
 -政治的教養と公民的資質-

筑波大学大学院/埼玉県立いずみ高校 華井裕隆

**自由研究発表Ⅱ - 第14分科会 (230教室)**

司会者 上越教育大学 志村 喬  
 北海道教育大学 金 玟辰

- (1) 縄文海退期の古椿海地形の地理情報システムによる復元と検証

東京情報大学大学院 内山 匠  
 東京情報大学 浅沼市男  
 東京情報大学 原田恵理子

- (2) 地理教育におけるシステムアプローチの可能性

群馬大学 宮崎沙織  
 専修大学松戸高等学校 泉 貴久  
 ERIC 国際理解教育センター 梅村松秀  
 公文国際学園中・高等部 中村洋介  
 静岡大学 山本隆太

- (3) 社会科地理における地理的概念の在り方  
 -市民性育成のための地理教育を目指して-

山形市立金井小学校 小口久智

- (4) 高等学校地理における「日本のエネルギー政策」をテーマとした授業実践  
 -価値判断・意思決定のプロセスを通して-

筑波大学大学院/専修大学松戸高等学校 泉 貴久

- (5) 中学校社会科における地歴連携単元の開発

愛知教育大学大学院/扶桑町立扶桑北中学校 小澤裕行

- (6) 米国教育制度改革の実情  
 -ロサンゼルス郡メイフェア中・高校における地理・米国史授業-

日本女子大学 田部俊充  
 目白大学 田尻信壹

**昼食 12:00~13:00**

**I 21世紀型学力論と社会科授業改善の方向性 (420教室)**

[趣旨]

現在審議中の次期学習指導要領においては、児童・生徒自らが課題を見だし、主体的に探究していく力を育てることをめざして、アクティブラーニングを通じて、新しい21世紀型の学力を育成していくための授業が求められるものと予想されます。そこで、社会科授業において、どのような力を、どのようにして育成していったらよいのかについて議論したいと考えます。

コーディネーター 国士舘大学 加藤 公明  
広島大学 木村 博一

報告者

(1) 子どもの「なぜ」から始めて、「『問』と『答』との『間』」を保証する歴史学習

－小6「刀狩の本当のねらいは何か？」の学習を通して－

牛久市立中根小学校 石上徳千代

(2) 中学生が政治経済に課題を提起し、討論する授業

－中学生が日本の社会の課題を発見する－

新潟市立石山中学校 小林 朗

(3) 社会科討論授業が切り拓く学びの地平

立教大学 和田 悠

**II 社会科と道徳との関係を考える (210教室)**

[趣旨]

「特別な教科 道徳」として道徳科が、学習指導要領に新たに位置づけられることになりました。社会科と道徳科との関連を考慮した学習活動を展開することで、相互に効果を高めることが求められています。社会認識の形成を通して、市民的資質の育成を目指す社会科と、新たに導入される道徳科とは、どのような関係を築いていけばよいのでしょうか。社会科と道徳科との関連／差異を意識した教育のあり方を、カリキュラムや授業のレベルで具体的に議論したいと考えます。

コーディネーター 静岡大学 磯山 恭子  
鹿児島大学 溝口 和宏

報告者

(1) 価値を問い直す主体を育てる小学校社会科授業構成に関する研究

横浜市立北方小学校 近藤 真

(2) 中学校における社会科と道徳科との連携

－新しい人権の学習の授業実践を通して－

掛川市立桜が丘中学校 岡田智行

- (3) 「社会的関連 (social connections)」を探究する授業実践とは何か  
— 道徳教育と社会科教育をつなぐリアリズム —

上越教育大学 生澤繁樹

- (4) 正義とケアを視点とする社会科教育と道徳教育の関係  
— 米国における Social Studies と Character Education のカリキュラムを手がかりに —

川崎医療短期大学 中原朋生

### Ⅲ 被災地復興に社会科はどう向き合うか？ (227教室)

[趣旨]

東日本大震災の被災地では、復興に向けた様々な取り組みが行われています。しかし、その一方で復興のあり方や進め方をめぐり多くの問題が発生しているのも事実です。こうした被災地の抱える切実な問題を私たちはどう受け止め、社会科の授業づくりにどのように活かしていくべきかについて議論を深めたいと思います。

コーディネーター 東京学芸大学 大澤 克美  
早稲田大学 池 俊介

報告者

- (1) 震災を乗り越え、たくましく生きる児童の育成  
— 小学校6学年「わたしたちの願いを実現する政治」の実践を通して —

仙台市立桜丘小学校 星 博子

- (2) 被災地における中学校社会科の学習について

名取市立増田中学校 宮本静子

- (3) 福島県内被災地の地域学習の現状と課題

帝京大学 鎌田和宏

### Ⅳ 社会科授業研究のための質的研究方法の課題 (230教室)

[趣旨]

社会科の授業研究には長い歴史と豊富な蓄積がありますが、最近では他分野で研究が深められてきている「質的研究」の方法に学ぼうとする傾向が顕著になっています。授業の合理的な解釈を志向する試みです。本分科会では、授業の解釈から授業改善につながる、社会科教育研究における質的研究のあり方について検討してみたいと思います。

コーディネーター 東京学芸大学 川崎 誠司  
岡山大学 桑原 敏典

報告者

(1) 小学校社会科における質的授業研究の試み

－法教育の視点を重視した第4学年「ごみの処理と再利用」の授業分析を通して－

練馬区立大泉第六小学校 窪 直樹

(2) 「当事者性」に迫る授業の可能性と限界

－つながろう 水俣とフクシマ の授業を通して－

東京学芸大学附属国際中等教育学校 古家正暢

(3) もし現職教員が社会科の質的研究の論点整理をしてみたら

－量と質，科学性と芸術性，原っぱと遊園地，授業と授業外，実践者と研究者－

東京都立府中東高等学校 吉田英文

(4) 社会科授業研究における質的研究法の課題と可能性

－教科教育学研究としての授業研究における質的研究法－

兵庫教育大学 吉水裕也

## V 地理歴史科改変の課題 (226教室)

[趣旨]

昨年、学術会議が高校歴史教育のあり方について提言を出しました。また、一方では中教審でも地歴科のあり方についての審議が進められています。今や高校地歴科の改変は必至なものとなっています。そこで本課題研究では、地歴科の改変が進められる中で、どのような地歴科があるべき姿であるのか、何を目指すべきなのかについて、高校や中学校で教鞭を執る会員も多い本学会の特性を活かし建設的に議論を深めていきたいと思えます。

コーディネーター 筑波大学 井田 仁康  
弘前大学 篠原 明彦

報告者

(1) 教育課題校の地理歴史教育における統合的・融合的なカリキュラム・デザイン

－市民的資質の育成を目指した地理歴史教育のミニマム・エッセンシャルの検討－

東京都立農業高等学校 大木匡尚

(2) 高校地理歴史科地理の改革による中学校社会科地理学習のあり方

東京学芸大学 荒井正剛

(3) 高校「歴史総合」「地理総合」(仮称)について

－「歴史総合」(仮称)について－

東京学芸大学 坂井俊樹

\* 司会者のお名前は、五十音順に記載しています。

\* 大学院重点化による大学院大学の所属につきましては、大学院生との区分をはっきりさせるために、便宜上大学名で記載させて頂きました。

\* 会員の控え室は、430教室となります。

# 大会参加要項

## 1. 参加費

### (1) 大会参加費

一般会員 : 3000 円 (事前登録), 3500 円 (当日受付)  
学生・院生会員 : 2500 円 (事前登録), 3000 円 (当日受付)  
非会員 : 3500 円 (事前登録・当日受付)

### (2) 懇親会参加費

会員・非会員 : 5000 円 (事前登録), 6000 円 (当日受付)

### (3) 弁当代 (お茶付き)

第 1 日目のみまたは第 2 日目のみ : 800 円, 両日 : 1600 円

【振り込み先】 ゆうちょ銀行

口座記号 : 02210-3 口座番号 : 138671

口座名 : 日本社会科教育学会第 65 回大会実行委員会 (ニホンシャカイカキョウイクガツカイ  
ダイロクジュウゴカイタイカイジッコウイインカイ)

## 2. 大会参加の登録について **【締め切り延長】2015 (平成 27) 年 10 月 16 日 (金)**

!! 振り込みも忘れずをお願いします。大会参加の登録を済ませただけでは、事前登録となりませんので  
ご注意下さい。

(1) 大会への参加は、学会ホームページの第 65 回全国研究大会 (宮城大会)  
([http://socialstudies.jp/ja/research\\_conference.html](http://socialstudies.jp/ja/research_conference.html)) をご確認の上、学会ホームページから送信してお申し込み下さい。ホームページをご覧になれない方は、同封の用紙と同様の内容をメールまたはファックスでお送りいただいても結構です。

(2) 大会の受付事務は、東北大生協 (担当 : 佐藤由康) に委託しています。

連絡先は、メールアドレス : [office@jass65th-taikai.sakura.ne.jp](mailto:office@jass65th-taikai.sakura.ne.jp) , FAX : 022-223-4518 になります。

**(3) 大会参加の登録、大会参加費・懇親会参加費・巡検費・弁当代の振り込みは、延長し、全て 10 月 16 日 (金) が締め切りです。**

(4) 振り込みが確認できた時点で、大会参加の事前登録の完了とみなします。なお、事前登録された方には、当日配付する『大会発表論文集』を確保します。当日の受付の混雑を緩和するためにも、可能な限り、事前登録をして下さい。

(5) 10 月 30 日 (金) までの事前登録のキャンセルは、振り込み手数料を除いて返金します。東北大生協 (担当 : 佐藤由康) にご連絡下さい。

## 3. 研究発表の準備について

(1) 自由研究発表の発表時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分 (計 30 分) です。

(2) 研究発表で資料を配付される場合は、自由研究発表は 70 部以上、課題研究発表は 100 部以上、シンポジウムは 400 部以上をご用意の上、発表当日ご持参下さい。なお、発表資料が不足する場合に備えて、若干の余裕の部数をご用意下さい。

(3) 発表の際は、事務局で準備するプロジェクターをご利用いただけます。プロジェクターをご利用の方は、ご自身のパソコンをご持参下さい。

#### 4. 11月6日開催の関連行事（巡検）

テーマ 被災地と社会科  
 対象地域 仙台市荒浜地区・名取市閑上地区  
 案内者 小田隆史（宮城教育大学教育復興支援センター）  
 人数 先着 40 名  
 集合時間・場所 13:00・JR 仙台駅東口より直進（徒歩 3 分）のハウジングセンター前  
**集合時間は厳守でお願いします。**  
 時間 13:00～17:30  
 費用 2000 円（上記の集合場所までの移動にかかる費用は実費負担）

#### 5. 会期中の昼食（弁当）について

大学付近にはコンビニ・飲食店がありませんので、弁当の注文をおすすめします。弁当は 7 日（土）・8 日（日）ともにお茶付きで 800 円です。弁当の注文は、大会参加の登録時に、学会ホームページから送信してお申し込み下さい。ホームページをご覧になれない方は、同封の用紙と同様の内容をメールまたはファックスでお送りいただいても結構です。

お弁当受け取り場所は、2号館 1F のリフレッシュスペース前です。

#### 6. 会場へのご案内



<市営バス> 仙台駅西口バスプール【9番】乗り場から、「715 宮教大」「710 宮教大・青葉台」「713 宮教大・成田山」行き乗車 「宮教大前」下車(所要時間約 20 分)  
なお、会期中の朝夕や、懇親会の終了時間帯に、臨時バスを増便する予定です。

<タクシー> 仙台駅西口タクシープールより 20 分，2000 円程度

※ 大学構内の一般駐車場の利用はご遠慮下さい。

## 7. お問い合わせ先

学会ホームページ([http://socialstudies.jp/ja/research\\_conference.html](http://socialstudies.jp/ja/research_conference.html))

\*大会に関する最新情報は、学会ホームページにて随時お知らせします。

### (1)大会参加の事前登録，自由研究発表の登録，大会参加費・懇親会費・巡検費・弁当代の振り込み

日本社会科教育学会第 65 回全国研究大会（宮城大会）実行委員会 受付部

佐藤由康（東北大生協）

メールアドレス：[office@jass65th-taikai.sakura.ne.jp](mailto:office@jass65th-taikai.sakura.ne.jp)

FAX : 022-223-4518

TEL : 022-226-3886

### (2)上記以外の事項

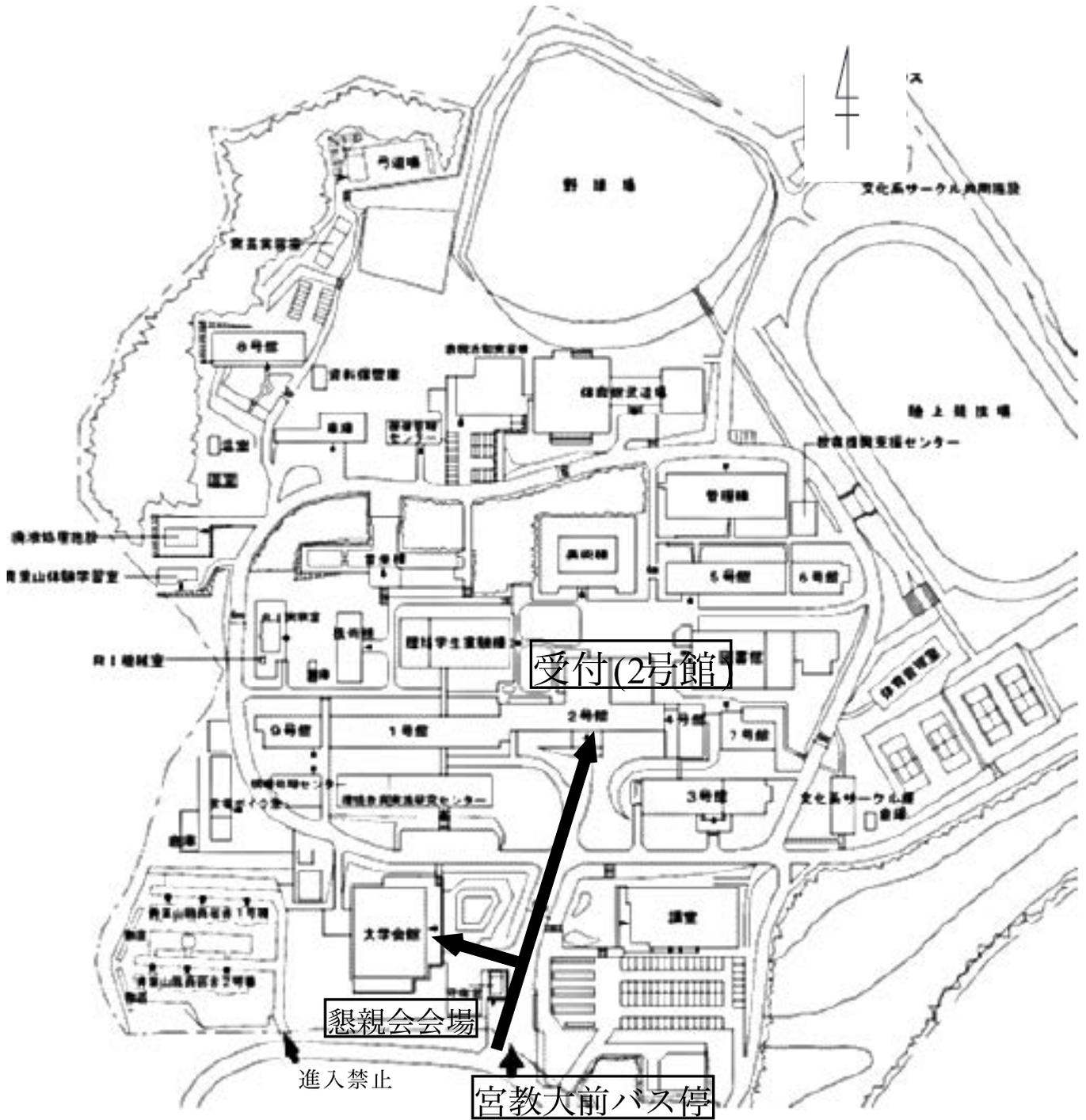
日本社会科教育学会第 65 回全国研究大会（宮城大会）実行委員会 事務局長 吉田剛

〒 980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地 宮城教育大学教育学部

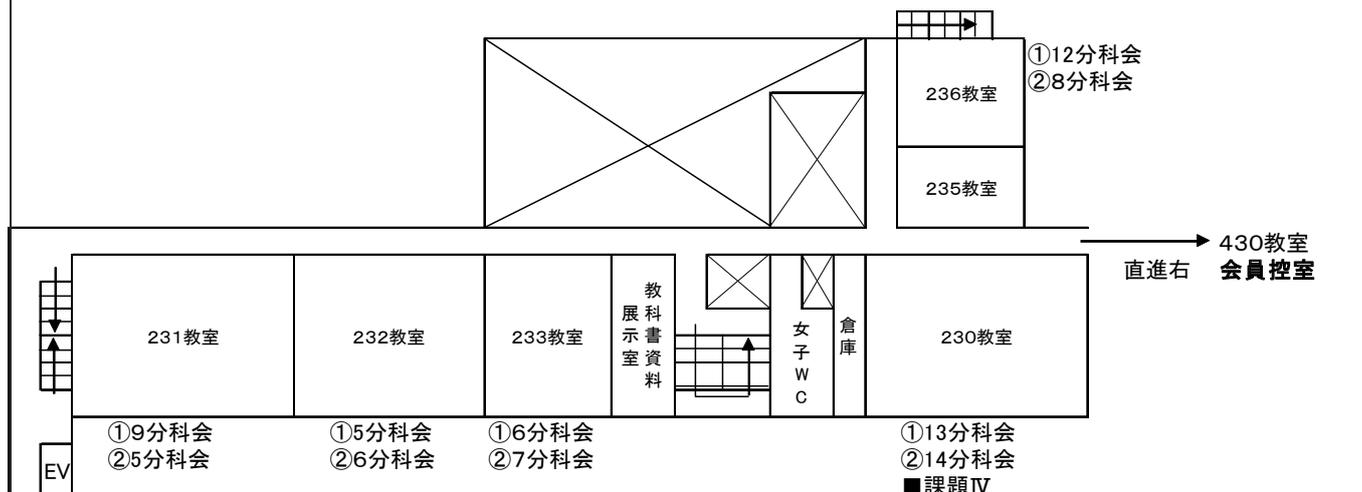
メールアドレス：[yoshida@staff.miyakyo-u.ac.jp](mailto:yoshida@staff.miyakyo-u.ac.jp)

\*問い合わせは、メールでお願いします。電話の場合には、受付部の佐藤由康に連絡をお願いします。

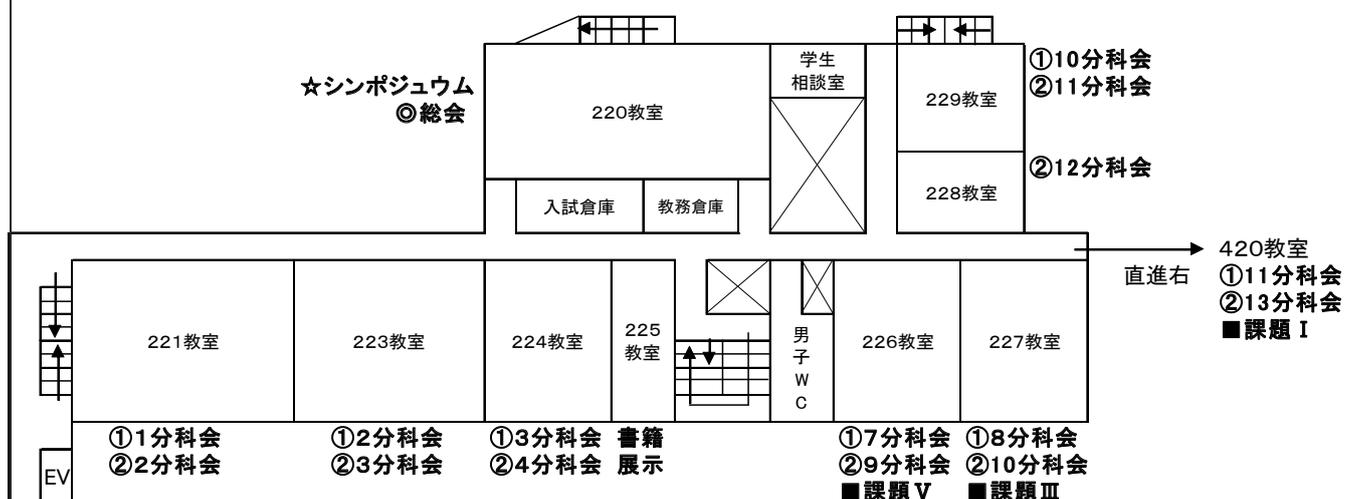
# 宮城教育大学 施設配置図



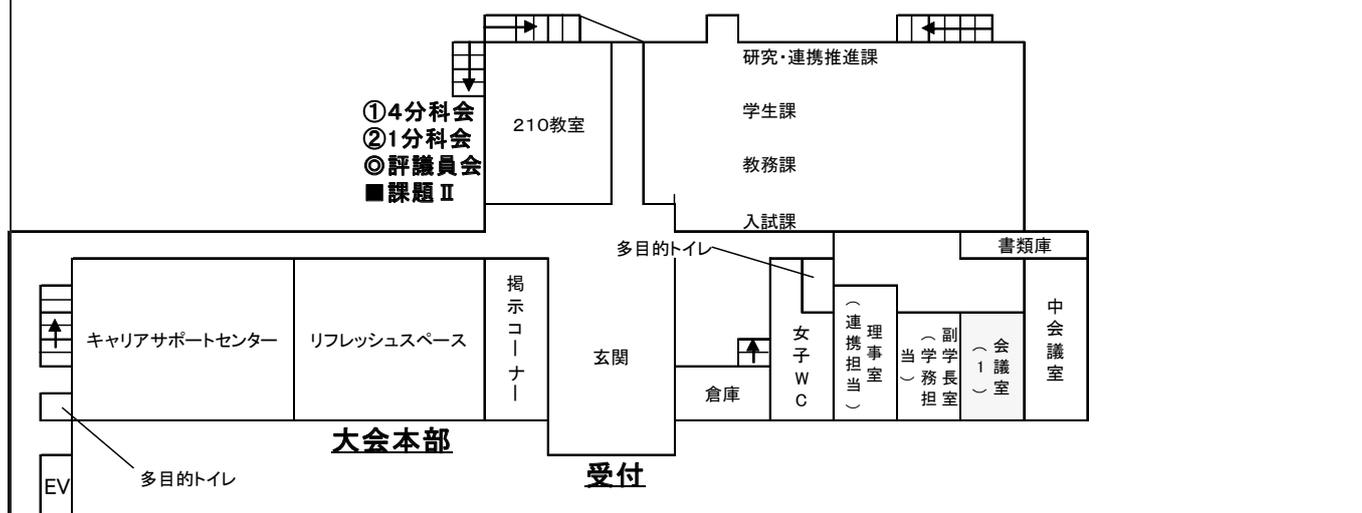
## 会場案内 2号館教室配置



3F平面図



2F平面図



1F平面図

☆宮教大前バス停を下車し、大学正門前を直進すると、左手に「菽朋会館」(懇親会会場)が見え、さらに直進すると、2号館があります。